

高砂市子ども・子育て・若者支援プラン素案に対する
意見公募（パブリックコメント）で提出されたご意見と市の考え方について

1 提出された意見とそれに対する考え方

整理 番号	ご意見	ご意見に対する考え方
1	<p>46ページ：1-3-1-4「子ども食堂」に関わる団体への支援</p> <p>現在、高砂市内で子ども食堂が開設され、多くの子ども達が訪れているという現状をうかがっているが、開設団体の継続した運営に向けた支援が必要ではないか。</p> <p>多くの子どもや地域住民の居場所として認知される中、必要なサポートにより、持続的な事業として継続することが重要であると考えます。</p> <p>市民に子ども食堂の必要性を周知させるとともに、市内の子ども食堂のサポートに必要な補助金等のプログラムを設定してはどうか。</p> <p>さらに、子ども食堂の事業者側のモラルやスキルの向上を支援し、より良い居場所づくりを進める必要もあると考えます。</p>	<p>子ども食堂は子どもの居場所として継続的に運営すること、より良い居場所づくりをしていくことが重要であることは十分認識しているところです。令和元年12月現在で市内に6か所開設されており、団体への支援として、食材の提供先の確保や各種補助金の案内などを行っています。</p> <p>現在は、市の補助金の未来戦略推進活動支援補助金や社会福祉協議会の補助金がありますが、時限的なものであるため、持続可能な運営ができるような方法について検討していきたいと考えます。</p>
2	<p>63ページ：5-2-2-1 学童保育所の充実</p> <p>学童保育所における利用児童がたいへん多く、今後も利用者が増加傾向にある中、適正な場所の確保を小学校の中で行えるようにすることや、具体的な施設環境の整備を行ってほしい。</p>	<p>学童保育所の利用児童数は年々増加しており、利用児童数に応じて小学校内の空き教室やプレハブ、また近隣の公設施設等スペースの確保をしているところです。今後において、可能な限り学校内で学童保育を行えるよう各小学校や教育委員会と協議を行い、国の基準に沿った施設環境を維持し、スペースの確保に努めて参ります。</p>
3	<p>平成29年度から30年度にかけて不登校が増えたという実績については、1件1件原因を精査しているのか。また、それを改善するための視点を施策に盛り込んでいるのか。</p>	<p>不登校につきましては、56頁にありますように、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携により、取り組みを進めております。加えて、58頁にありますように、学校・家庭・地域の連携・協力を推進しているところであります。</p> <p>引き続き、個々の原因の精査とともに、不登校問題の解消に向けて取り組みを進めて参ります。</p>

4	<p>高砂市としてこども園化を推し進める背景にはどういったものがあるのか。また、そのメリット、デメリットをどう考えているか。</p>	<p>全国的な人口減少社会の到来については高砂市も例外でなく、子どもの数も同様に減少していく傾向が予測されています。その中で、幼児教育・保育に対する保護者ニーズの複雑・多様化に対応していく必要があります。また、保護者の就労状況などに関わりなく、3歳から5歳の子どもが同じ施設で教育・保育を受けることなどがメリットとして挙げられます。デメリットとしては、1号認定と2号認定の子どもで降園時間が異なることですが、パート保育士等増員し、子ども達が不安にならないよう、子どもへの配慮を行っております。</p>
5	<p>子どもだけで安心して遊べる場所づくりが必要ではないか。ソフトサービスは充実してきているので、後は環境面が大切であると思う。児童館などの建物を建てるのも一つかと思うが、のびのびとボール遊びができる公園などが必要だと思う。</p>	<p>公園は規模や機能により、さまざまな形態があり、市街地では、周辺住宅への配慮などでボール遊びができない公園もあります。新規公園の整備や再整備を検討する際には、本来の目的であるレクリエーションやふれあいの場の創出のみならず、地域に愛される公園を検討してまいります。</p>
6	<p>世代や年齢・性別を問わずに、市民が気軽に集まれて、子育てや生活における相談ができる施設を作ってはどうか。条件としては以下の5点を提案する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小学校や家庭以外の児童の居場所づくりとして、宿題ができるスペースや地域の方々が子ども達を見守ることができる場所。 ②高齢者・子育て世代の相談窓口や子どもホットラインの設置。 ③子ども食堂の開催場所として使用できる場所。 ④自治会・老人会・婦人会・子ども会などと多世代交流ができる場所。 ⑤高齢者の一人暮らしをしている人たちが集まって食事を作って食べれる『シェアキッチン（仮称）』を設置し、そこに子どもが参加できるようすれば孤食の改善に繋がるのではないかと。 	<p>本市では、地域住民の活動支援機能を持ち、コミュニティ活動、地域福祉及び生涯学習の推進に資するための活動拠点となる地域交流センターの整備を進めていくこととし、平成31年2月「地域交流センター整備方針」を策定したところです。</p> <p>施設では、「集い」「憩い」「学び」「つながり」「安心」をコンセプトとして、地域づくり機能、市民交流機能、市民活動機能、情報交換機能、防災機能を持つ施設とする予定であり、ご提案内容も含めて多様な世代に自由に使っていただけるものと考えています。</p> <p>施設の整備は、地域と協議して順次進めて参ります。</p>

2 意見提出数

提出方法	人 数	件 数
郵 送	0	0
ファクシミリ	0	0
電子メール	4	6
合 計	4	6